

「Business workshop analysis 参加報告書」

京都大学経済学部 4 年 A.M.

台湾では、初日に現地に到着した直後から、NTU（国立台湾大学）の学生が来て案内してくれた。道中、観光地の話や天気の話から、趣味の話、将来設計の話まで冗談も交えながら NTU の学生はわたしたちに積極的に話をしてくれた。また、行く先々で、建物や食べ物の説明を受けて、個人で観光に行くのでは味わえない旅行になったと思う。ただ、1 日目に一番印象深く感じたのは、私たち日本人がその英語力とコミュニケーション能力の高さに明らかに圧倒されたということだ。Reading、writing の能力では負けないはずなのに speaking の能力では圧倒的な差を感じる。今後も英語を話す機会を出来るだけ増やし、国内でも練習してある程度難なく話せるようになりたいという思いが今回の台湾渡航の 3 日間全体を通して一番大きく感じたことである。始終会話の中心は NTU の学生にあり、日本人は相槌しか打てず、質問されて始めて答えられる程度しか話せなかったということは大きな反省であった。

2 日目は、この渡航の主な目的でもあった、ワークショップに参加した。ここで、ゼミで半年以上に渡って作りあげてきた研究の成果をプレゼンテーションの形で発表し、また NTU や早稲田大学の院生の発表など、多くのプレゼンテーションを見た。念入りに準備した成果もあり、自分たちのプレゼンテーションは想像以上に上手くいった。しかし、ここでも NTU の学生のプレゼンから学ぶことは多くあった。パワーポイントのスライドの美しさやトーク力は京大生の比にならないと思う。また、1 日目からの「自分達は英語が喋れない」という劣等感から、ここでも質疑応答の場面などで NTU の学生のように意見を言ったり疑問をぶついたりすることができなかった。

この 3 日間で学んだことや、自分の課題として改めて感じたことは、この参加報告書という短い文章にまとめただけでも明らかである。つまり、英語のスピーキング力にまだまだ自信が持てず、スムーズにコミュニケーションが取れるレベルでは決してなかったということ、そして自信がない故にコミュニケーションの機会に対して消極的になりがちだということである。このワークショップをもってゼミ活動は私にとって最後となり、春からは監査法人で働いていくこととなる。将来は海外の監査法人でも働いてみたいという思いも持っている以上、いざ海外にいった際に今のままの能力や考え方では相当苦勞もするし、英語力も期待したほど伸びないことが容易に予想される。このワークショップへの参加は、自分自身の問題意識を明確にし、英語力とコミュニケーション能力を向上させたいというモチベーションとなった。